

新型コロナウイルスの影響が世界的に広がり、人が集まるファッションショーや展示会の類はほとんど中止または延期となったばかりでなく、アパレル製品の生産・流通の停止を余儀なくされた国もあります。その余波を受けて、ファッション誌ではブランドとのタイアップ企画の多くが頓挫し、広告のキャンセルが続出しています。消費者サイドにしても、リモートワークを命じられたり式典が中止されたり社交旅行が制限されたりしているので、服を買う動機も薄れています。「ファッションどころではない」時代です。

そのような苦境にあつて、体力が残るファッションブランドや化粧品ブランドは、世界の現状に貢献することで存在をアピールしています。たとえば、ジョルジオ・アルマーニ社が感染症対策に関わるイタリアの機関に対して125万ユーロ（約1億4750万円）を寄付したのを筆頭に、ブルガリ、ドルチェ&ガッバーナなども研究機関へ寄付しました。

経済的支援以外のかたちでは、たとえばZARAを擁するインディテックスは、スペインの医療関係者に30万枚を超えるマスクを寄贈。洋服の代わりにマスクを作って販売しはじめる企業やデザイナーも続々登場しています。また、クリスチャンディオールやゲランなどの香水ブランド

を擁するモエ・ヘネシー・レイ・ヴィトン（LVMH）グループは、香水を製造する代わりに、手の消毒ジェルを製造し、パリ公立病院連合に寄付すると発表しました。

危機のなか、コロナ後の地球への一抹の希望を感じさせるニュースもあります。世界中で経済活動が停滞した結果、大気汚染が劇的に減少し、ベネチアの運河も水上交通量が激減し水がきれいに澄んでいるという報道です。グレッタ・トゥンベリさんが怒りをこめて訴えても変わらなかった大気中のCO₂削減が、新型コロナウイルスのまん延により一気に進んだという



なかの かおり

1962年生まれ、富山市出身。服飾史家として研究・講演・執筆をおこなうほか、昭和女子大学客員教授、企業の顧問を務める。株式会社Kaori Nakano代表取締役。東京大学大学院修了。英国ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授などを務めた。著書に、「『イノベーター』で読むアパレル全史」（日本実業出版社）、「ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史」（吉川弘文館）ほか多数。

中野香織
「ファッション歳時記」
104

パンデミック
ファッション業界の
反応



写真上／古代ギリシャの哲学者アリストテレス
写真下／イタリアのウンブリア州ソメオ村にあるブルネロ クチネリ本社工場

のはなんと皮肉なことなのか。パンデミックは、環境破壊が進んでも資本主義追求をやめない人間に対する、地球からの警告とも見えてきます。

まらせることに、図らずも貢献するかもしれせん。

イタリアの高級ファッションブランドの経営者、ブルネロ・クチネリは哲学者としても知られますが、生産中止を余儀なくされた今回の危機に際し、顧客や取引先、社員に対して「春の便り」を送りました。その中にこのような一文がありました。「今日の苦悩の中にも我々をより精進させる道徳的反応といった良い面がある。そして明日、今の苦悩が記憶とともに朽ち果てる時、この時期を思い返し『天災にも魂はある。賢明な人生の師になり得るのだ』というアリストテレスの言葉を心に刻みたい」。昼夜働き続ける医療従事者に感謝しつつ、この時期に起きる良きことにも目を向けながら、コロナ後の未来に備えましょう。どうかみなさまご自愛ください。